

平成 30 年度 青葉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1 回	高齢分野・障害分野それぞれの活動状況，地域生活支援拠点のモデル事業，荒巻包括ケアシステムモデル事業などについて報告や意見交換を行った。
(2) 実務者ネットワーク会議	3 回	<p>障害者の権利擁護や顔の見えるネットワークづくりの観点から，以下のテーマを掲げ実施した。</p> <p>第1回 『地域共生社会の実現に向けて ～しょうがいのある当事者の声から学ぶ～』 〔当事者3名をゲストスピーカーに招き，講話を頂く中で支援の在り方について参加者間で共有した。〕</p> <p>第2回 『地域共生社会の実現に向けて ～学ぶ×動く×あおば～』 〔仙台市健康増進センターにて，当事者が実際に利用しているプログラムや施設設備を支援者が体験し，運動効果を体感した。〕</p> <p>第3回 『生活保護についてもっと知ろう ～しょうがいがあっても地域で安心して生活していくために～』 〔救護施設である東山荘を会場に，青葉区保護課の職員を招致して生活保護制度について講話を受けた。また，障害をお持ちの生活保護受給者について事例検討を行い，制度の相互理解をする場となった。〕</p>
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12 回	事例分析による支援の困難さの抽出を通じた個別支援の質の向上，相談支援傾向を共有し地域課題の抽出や解決を図った。
(4) 精神保健福祉部会	6 回	統合失調症圏の医療中断者またはそのリスクが極めて高い者に関する事例を分析し，医療中断に至るリスク要因の抽出・分析を行った。
(5) 地域課題ワーキング	4 回	対象地区を絞り地域で行われている会議等に参加し，地域住民とその地域の支援者との関係性を構築していくことにより，より現実に即した地域の強みや課題を把握できるか検証した。
(6) 運営会議	12 回	各会議体の進捗管理や地域生活支援拠点モデル事業の運用について検討を行った。

1 今年度の主な取組み

○相談支援事業所等連絡会（以下、連絡会）

昨年度までの連絡会は、「青葉区の事業所であれば誰でも参加自由」であることをコンセプトに事業種問わず、幅広い参加を募り事例検討や GSV を実施してきたが、参加者が毎回異なることから事例を深めることが難しく、アセスメントの質の向上に結び付きにくい状況であった。

この課題を受け、今年度は参加者を「相談支援を主とする関係機関」に限定し、相談支援事業を担う機関が受け付ける新規事例の傾向の把握と、困難事例に関する事例分析を通し困難さを生む要因の抽出や個別支援の質の向上を図った。

○精神保健福祉部会

医療中断者の中でも統合失調症圏に焦点を当て、医療従事者も交えた事例分析から医療中断に至るリスク要因について分析を行った。全 6 回の分析を通して見えてきた医療中断の背景としては、「満たされない生活ニーズ・心理発達の課題」「家族の愛情・理解・関わり方のアンバランスさ」「継続せず、積重ならない支援」「医療・福祉・本人の関係性の問題」の大きく 4 つが挙げられ、次年度以降はこれらの課題に対し取り組みを行う予定である。

○実務者ネットワーク会議(以下、つどい)

今年度のつどいでは、初めて当事者を招き日々の暮らしの中で感じている思いに触れることが出来た。参加者からは、もっといろいろな当事者の方の声を聞いてみたいという声が多く、反響も大きかった。

また、生活保護制度などの他法について、従事者から学ぶ機会もこれまでなく、障害福祉を取り巻く関係制度の基礎知識を支援者間で共有しておくことが当事者の利益にも繋がることを再認識する場となった。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

連絡会、精神保健福祉部会にて事例の抱える問題の本質について分析し、困難さの要因について抽出したところである。次年度以降は、困難さを生み出す要因に対し発展的な取り組みを行うに当たり、支援者側のアセスメントの質を含めた個別支援力の向上や、より有機的なネットワーク形成が求められている。

また組織レベルで言及すると青葉区にて地域生活支援拠点モデル事業が開始しており、組織運営に当たっても「『重点的に関わる対象者』に支援が届くためにはどのような体制が求められるのか」という点をより意識した体制作りが求められている。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

重点的に関わる対象者へ効果的に支援の手が届くための体制作りに向けて、サポネットあおばでは以下 3 段階に分けた体制整備を念頭に各会議体の運用に臨む。

第一次体制…重点的に関わる対象者とならないための体制作り

第二次体制…重点的に関わる対象者が早期に支援機関につながるための体制作り

第三次体制…重点的に関わる対象者が適切かつ継続的な支援を受けることのできる体制作り

平成 30 年度 宮城野区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1 回	<p>今年度から区地域ケア会議と合同開催とした。</p> <p>【内容】・区地域ケア会議，区障害者自立支援協議会の活動報告 ・グループワークによる意見交換</p> <p>テーマ：「事例から地域包括ケアシステムを考える」</p> <p>事例提供：高齢分野，障害分野のニーズのある世帯を支援して</p>
(2) 実務者ネットワーク会議	4 回	<p>① 全体会（1回 参加者数 95 名）</p> <p>【テーマ】 見えない障害をお持ちの方が暮らしやすい地域へ</p> <p>【内容】 てんかん，高次脳機能障害，発達障害，難病の当事者や支援者によるシンポジウム形式の講話及び意見交換を実施</p> <p>【登壇者】 話題提供：てんかん協会 荻原せつ子氏 コーディネーター：宮城野障害者福祉センター所長 鈴木成貴氏 シンポジスト：NPO 法人ビートスイッチ 日下真由美氏 ここねっと 当事者・西田有吾氏 宮城県難病相談支援センター 大内純子氏</p> <p>② エリア会（区内 3 エリア各 1 回，参加者数 計 67 名）</p> <p>【鶴ヶ谷エリア会】 15 名参加</p> <p>テーマ：「この街でくらす，この街の人と笑い合う，この街で生きている」。地域に住む知的障害者の親御さんがどのような気持ちで生活しているかを知るために，ワークつるがや利用者の保護者を対象としたアンケートとインタビューを実施。宮城大学佐藤助教より地域の民生委員に向けた報告会を実施。</p> <p>【幸町エリア会】 41 名参加</p> <p>テーマ：「地域全体で考える町づくり～誰もが暮らしやすい町づくりを目指して」。「榴岡地域担当圏域ケア会議の報告」，「幸町周辺エリア会の取り組みと支援事例報告」，意見交換会</p> <p>【岩切・高砂エリア会】 11 名参加</p> <p>テーマ：「地域の社会資源を知る～施設見学会～」。わっカフェ（みはるの杜診療所内），小規模地域活動センター 縁むすびの見学。</p>
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談傾向と課題の共有 ・事例検討，継続ケースの経過報告
(4) プロジェクトチーム	なし	
(5) 運営会議	12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・各会議体の進捗管理 ・課題解決に向けて区自立支援協議会全体の活動の検討

1 今年度の主な取組み

(1) 実務者ネットワーク会議エリア会

① 鶴ヶ谷周辺エリア会

- ・地域の中で暮らす障害者の子を持つ親の思いを知ることで、地域における障害理解の促進につながった。
- ・民生委員等の地域の方を交えて、自分たちに何が出来るか等意見交換を行う事が出来た。

② 幸町周辺エリア会

- ・地域の方や包括支援センター等の関係機関と顔の見える関係が構築されてきたことで、地域課題を分野を超えて共に検討する事ができた。
- ・自ら声をあげられない方や重点的に関わる対象者の情報を得て、地域住民と共に支援する事ができた。

③ 岩切・高砂周辺エリア会

- ・参加者の方からは「別途研修で施設見学をしたい」という声もあがり、地域の障害分野における社会資源の理解や、地域と支援者間のネットワーク構築・強化につながった。

(2) 実務者ネットワーク会議全体会

- ・当事者の生の声や直接の支援者の話しを聴くことで、参加者の障害に対するイメージが変わったり、新たな気づきを得られる機会となった。
- ・参加した事業所や関係機関の間で新たな支援機関同士のつながりが生まれた。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

障害者の高齢化

- ・身体機能の低下により医療的ケアが必要となり、自宅や障害者施設等での生活が困難となって新たな生活の場の検討が必要となる方が多い。
- ・介護保険施設の空き状況や待機期間等の情報が不足している。高齢分野との連携が必要。

障害をもつ方の家族の高齢化

- ・親が高齢で障害をもつ子の介護が困難になり、施設やグループホームへの入所を検討するが空きがない。金銭管理や医療同意の担い手が不在。
- ・家族が高齢になってもできるだけサービスを利用せず介護したいとの希望があり、サービスの導入が困難なケースがある。

福祉サービスの調整・社会資源活用

- ・グループホーム、ショートステイ、レスパイト等の空きがなく必要なサービスにつながらない。
- ・高次脳機能障害の方、重複障害の方、医療的ケアを必要とする方、手帳を所持していない発達障害の方、障害をもつ不登校児童、ADLは自立しているが行動障害がある方等、制度の狭間にある方が支援に結びつきづらい。

多職種連携

- ・障害分野だけでなく、介護保険、教育や保育等、様々な分野との協働が必要なケースが増えている。多職種連携、チームアプローチについての支援技術が相談支援事業所に求められている。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・相談支援事業所連絡会では、集約した課題の検討、情報の集約、事例検討を実施予定。
- ・実務者ネットワーク会議は次年度も同様に開催予定。

平成 30 年度 若林区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）	
（１）全体協議会	２回	区地域ケア会議と合同で開催し，地域課題の共有，解決に向けてグループワークを実施した。	
（２）実務者ネットワーク会議	２回	支援者を対象に，経験年数等でグループ分けし，各年代ならではの情報共有など繋がり強化を図った。	
（３）障害者相談支援事業所等連絡会議	１２回	事例検討（テーマ設定）とその事例のレビューを行い相談支援のスキルアップを図った。	
（４） チーム プロジェクト	PT	１回	障害理解，啓発の方法を検討。区民まつりに参加し，多くの来場者に PR した。
		回	
		回	
（５）運営会議	１２回	区自立支援協議会の活動方針等を策定	
その他の活動			
	回		

1 今年度の主な取組み

年度当初に活動テーマを決め、以下の3点とした。

- ①障害のある方やその家族への支援力を高める。～支援者のスキルアップ～
- ②障害に関する普及啓発活動
- ③支援ネットワークの形成

①は主に相談支援事業所等連絡会で実施した。

各回でテーマを設定し（例：医療に繋がらない、金銭問題等）、事例検討を行った。幅広い意見から、可能なものは支援策への取り込みを図った。継続的に支援の状況を共有することを目的にレビューも実施した。

また、地域包括支援センター連絡会議と合同で、事例検討や地域課題（ごみ屋敷）のアプローチについて検討会を2回実施した。

②はプロジェクトチームで実施した。

若林区民ふるさとまつり（10月21日開催）に若林区障害者自立支援協議会としてブースを出店。内容は、「ふくしっちゃん？自立くんとじりじりクイズ」クイズコーナー、点字体験コーナー、盲導犬ふれあいコーナーの3つを実施。

また、マスコットキャラクター「自立くん」も積極的に会場内を移動し、多くの来場者にチラシを配布するなどPRに活躍した。

③は主に実務者ネットワーク会議で実施した。

支援に携わる方々の経験年数・役職などで4つのカテゴリーに分け、カテゴリー毎にテーマとそのねらいを決めてGWを実施。参加者は、職場の同僚とは異なる方々と共通の話題について話し合い、また、日頃の疑問や相談など忌憚のない意見交換をしていただいた。参加者からは情報交換、ネットワークの必要性を再認識した等、好評であった。

また、高齢者支援部門での会議に参加し、地域包括支援センターと支援上の課題やアセスメントの視点を共有する機会を持った。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

参加メンバーの固定化、少数化が課題となる中、ぎりぎりのところで上記を実施している現状である。そのような状況であるが、新たに区自立支援協議会に求められる役割が増えてきている。会の基盤強化が急務と捉えているが組織的、構造的な課題があり中々進まない。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

次年度以降も先にあげた活動のテーマに沿って活動を積み重ねていく。

高齢者支援部門と共有した地域課題の解決に向けて、合同でワーキンググループを作り具体的な解決策の検討及び実行につなげていく。

平成 30 年度 太白区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1 回	太白区高齢者障害者地域会議 平成 31 年 2 月 21 日 平成 30 年 12 月に町内会、民生委員、社会福祉協議会等を対象にした勉強会を実施。当事者から「日頃の関わりが嬉しい」「対等な関係でいたい」との話があり、それを踏まえて、委員が現在行っていることを紹介、それぞれ自分たちが新たに行えそうなことを議論した。
(2) 実務者ネットワーク会議	28 回	○全体会 2 回 平成 30 年 7 月 20 日：テーマ別 困りごとフリートーク（大人の発達障害・家族支援・生活管理・依存） 平成 31 年 1 月 18 日：連携につて ○エリア会（区内を 3 エリアに分け実施）26 回 交流、情報共有や支援方法の検討、研修会の実施
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12 回	主に新規相談を受けたケースについて情報共有・事例検討 うち 1 回は高齢分野の多職種連携会議と合同開催
(4) プロジェクト チーム	よりそいワーキング 65	障害福祉サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行を目的に発足。課題の整理や高齢分野と障害分野の相互理解のための勉強会等を企画。 <構成メンバー> 地域包括支援センター、委託障害者相談支援事業所 区障害高齢課（介護保険係・高齢者支援係・障害者支援係）
	勉強会 1 回	よりそいワーキング 65 のメンバーが中心となって実施 障害福祉サービス・介護保険の理解それぞれの講話・質疑応答 事例検討
	住まいのプロジェクト	平成 29 年度に実施した太白区内にあるグループホームへの業務概要のアンケートと世話人を中心としたインタビューのまとめを作成し、送付。
(5) 運営会議	12 回	・各会議やプロジェクトの報告、情報共有、運営方法の検討 ・実務者ネットワーク会議（全体会）の企画 ・地域課題の抽出 ※今年度より健康増進センター参加。
その他の活動		
障害のある方の健康に関するアンケートの実施	随時	エリア会において、当事者の健康に関する課題や支援の難しさについての声があがっていたため、実態把握のため、太白区内にある障害者の通所・入所先等 88 箇所へ健康に関するアンケートを実施した。

1 今年度の主な取組み

<住まいプロジェクト>

H26年度から「住居」に困っている方が多い事が話題となり、住まい探しの事例を整理、グループホームに焦点を当て、現状報告や解決策の検討のための情報交換会を開催してきたが、H28年度は休止。H29年度は区内19ヶ所のグループホームに出向いてインタビューを実施した。それを受けて、H30年度はインタビュー結果をまとめ、良い取り組みや工夫等をフィードバックした。その後、グループホーム連絡会が立ち上がり、世話人の研修等が企画実施されていることもあって、区自立支援協議会の活動としては終了となる。

<高齢分野と障害分野の連携を強化>

H28年度から実施しているよりそいワーキング65の中で、事例検討会を高齢と障害分野の支援者が一緒に行うことにより相互理解が深まり、区が間に入らなくても、地域包括支援センターと相談支援事業所で直接連絡を取り合う「顔の見える支援体制」の構築に繋がった。また、当事者・家族用リーフレットを作成した。来年度は、介護保険への移行以外の高齢と障害分野で共有する課題も議題にするため「よりそいワーキング」と名称を変更し引き続き取り組んでいく。

<障害への理解>

H28年から開催している高齢者障害者地域会議の中で、「障害者について学びたい」との意見がでる。平成30年12月に町内会、民生委員、社会福祉協議会等の地域の支援者を対象にした勉強会を実施し107名参加。精神科医の講話と当事者（身体・精神・発達）へのインタビュー形式の講話を実施した。当事者から「日頃の関わりが嬉しい」「対等な関係でいたい」との話があり、地域では専門的な支援ではなく普段やっていることを続けることが大切ではないかとの意見がでた。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ①障害のある方の住まいの選択肢は限られており、受入れ側の障害理解も含めて十分ではない。基本は個別支援を通して地域に働きかけていくことだが、全市的なレベルでの普及啓発や仕組み作りが必要。
- ②障害者相談支援事業所等連絡会議の指定相談支援事業所の参加率が低い。平成31年2月に区内の相談支援事業所にアンケートを行いニーズの把握をしようとしたが、赤字経営、請求や加算等事務的な困りごとが挙がり、区の自立支援協議会だけでは対応が難しい。
- ③8050問題や高齢の親だけで障害を持つ子を支えているケースが多く、高齢と障害分野でのさらなる連携が必要。
- ④勉強会后アンケートの中で、「今まで具体的にわからなかったので偏見があったかも」との感想があり、まだまだ障害についての認識不足があるのが現状。地域住民の障害に対する理解が必要。
- ⑤上記課題は、区全体にいえることであり小さな地域特有の課題は把握できていない。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ①仙台市自立支援協議会等との連携
- ②仙台市自立支援協議会や障害者支援課等の関係機関との連携、研修企画
- ③名称を「よりそいワーキング」と変えプロジェクトを継続する。実務者ネットワーク会議の場の利用。
- ④⑤障害への理解を深めるための勉強会の企画、実務者ネットワーク会議に地域関係者（民生委員、福祉委員、町内会等）の積極的な参加を促し、地域特有の課題を一緒に探していく。

平成 30 年度 泉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議		年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会		1 回	平成 31 年 2 月 7 日：泉区地域ケア会議と合同開催 「障害者と家族の高齢化について考える ～地域の視点から～」 精神障害の事例を通じた地域支援に関するグループトーク。 地域ケア会議，区自立協，健康づくり事業等についての報告。
(2) 実務者ネットワーク会議		12 回	ミニ講話，グループワーク等 4 月 今年度のよめごと会議について 5 月 おともだち紹介キャンペーン企画 6 月 講話「当事者の声」 7 月 事業所見学ツアー企画編 8 月 講話「特別支援教育コーディネーターについて」(教育分野との連携①) 9 月 事業所見学ツアー報告会 10 月 上手くいった事例の共有 11 月 支援者間のつながり強化企画 12 月 講話「障害者の高齢化～住まいについて～」 1 月 健幸プロジェクトタイアップ企画(教育分野との連携②) 2 月 今年度のまとめ，来年度の計画について 3 月 グループワーク(オモカルミーティング) (予定)
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議		12 回	・各団体からの支援状況・近況の報告，支援上の課題の情報共有。 ・支援上の課題の整理・共有。 ・GSV を用いた事例検討。 ・成功事例，困難事例の共有。 ・スキルアップ企画（事業所インターンシップ企画）
(4) プロジェクトチーム	泉区資源マップ PT	3 回	余暇活動に特化した資源マップの作成。資源マップの作成・活用方法に関する研修会の実施。プロジェクトのまとめ。
	健幸 PT	7 回	区内小・中学校，特別支援学校の健康支援に関する実態調査の検討・実施。公衆衛生みやぎの原稿作成。
(5) 運営会議		12 回	各会議体での進捗管理。地区民児協への広報活動の企画調整。研修会の企画・運営。部会等の報告。
その他の活動			
協議会主催研修会		1 回	平成 30 年 11 月 21 日（水）13:30～16:00 「障害の有無にかかわらず，誰もが安心して生活できる地域づくりのために ～ネットワークについて考えよう～」

		内容：シンポジウムとグループワーク 参加者：62名，障害福祉サービス事業所（相談含む），地域包括支援センター，民生委員児童委員，行政機関等
高齢分野との連携及び研修会	8回	・高齢分野との合同研修会（3回） ・地域包括支援センターとの合同会議（連絡会議，多職種連携会議）（4回） ・全体協議会前に，地域包括支援センターと障害者相談支援事業所が集まり，事前調整

1 今年度の主な取組み

1. 障害福祉分野への広報活動を強化

- ・実務者ネットワーク会議，各プロジェクト，研修会の取り組みを通じた広報活動
- ・地区民生委員児童委員定例会，包括圏域会議等への参加

2. 参加機関の支援力の向上・スキルアップ

- ・連絡会議，実務者ネットワーク会議にて，事業所見学を実施
- ・連絡会議にて事例検討を実施

3. 泉区内の支援課題の把握・整理

- ・連絡会議にて，過去に抽出されていた課題を改めて整理し，区として取り組める課題と，市の協議会に提言する課題とを整理
- ・泉区資源マッププロジェクトにて，余暇活動における資源情報の収集・整理，マップ作成および活用方法を泉区内事業所へ提案する勉強会を実施
- ・健幸プロジェクトにて，学齢期の障害児における健康づくりに関する支援上の課題を把握するためのアンケート調査を実施

2 現状における課題（地域ニーズや課題，協議会運営上の課題など）

- ・市協議会との連動・連携，他区協議会との連動・情報共有が必要。
- ・より参加者のスキルアップが図れる事例検討の方法について，検討が必要。
- ・今年度整理した支援課題のうち，区の協議会で取り組みそうなものは，プロジェクト化なども見据えて取り組んでいくことが望ましい。
- ・一貫性・継続性のある活動をしていくためにも，担当事業所や職員の変更などにも対応できる内容や実施頻度を検討していく必要がある。
- ・広報活動の在り方や対象，方法等について，泉区自立協としてどのように進めていくべきか検討し，実行できる体制作りが必要。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・障害福祉分野への広報活動を強化すること。
- ・参加機関の支援力の向上・スキルアップを目指すこと。
- ・泉区内の支援課題を把握・整理すること。

以上を泉区自立協の目標として，H30年度に引き続き継続して取り組む。また，市自立協・他区自立協との連携をより意識した取り組みを，各会議体にて行っていく。